令和4年度 全国公立大学学生大会 LINKtopos2022 in Fukuchiyama

「ReStart」

報告書

2022年度公立大学学生ネットワーク運営学生

【2022報告書目次】

- 0.はじめに
- 1.令和4年度大会プログラム
- 2.参加者の対象と推移
- 3.活動内容とその成果
- 3.1 大会 1 日 目
- 3.1.1 開会式
- 3.1.2 講演会
- 3.1.3 まちあるき
- 3.1.4 1 目目総括
- 3.2 大会 2 日目
- 3.2.1.1 ポスターセッション
- 3.2.2.2 ポスターセッション参加者の声
- 3.2.3.1 企画
- 3.2.3.2 企画(満足度)事後アンケート結果/参加者の声
- 3.2.4.1 アイスブレイク
- 3.2.4.2 アイスブレイク(満足度)事後アンケート結果/参加者の声
- 3.2.5 2日目総括
- 3.3 ワークショップ
- 3.3.1 テーマ①感染症対策を考える災害時における避難所運営シミュレーション
- 3.3.1.1 講演会
- 3.3.1.2 テーマ別報告会(成果物一覧)
- 3.3.2 テーマ②地域防災~災害予防を通して地域防災のRestartを考える~
- 3.3.2.1 講演会
- 3.3.2.2 テーマ別報告会(成果物一覧)
- 3.3.3 テーマ③未来に役立つ本当の自己分析~大学生のためのキャリアデザイン講座~
- 3.3.3.1 講演会
- 3.3.3.2 テーマ別報告会(成果物一覧)
- 3.3.4 テーマ④多様性ってなんだろう? ~ やさしい心で私もあなたも大切に~
- 3.3.4.1 講演会
- 3.3.4.2 テーマ別報告会(成果物一覧)
- 3.5 大会3日目
- 3.5.1 全体共有
- 3.5.2 閉会式
- 3.5.3 3日目総括
- 3.6 オープンチャットの活用について
- 3.7 SNSの活用について
- 3.8 プログラム全体を通して
- 3.8.1 プログラム全体の事後アンケート結果/参加者の声
- 4.次年度以降の学生大会開催に向けて課題、課題への提言
- 5.全国公立大学学生大会の今後の展望について
- 6.謝辞
- 7.公立大学学生ネットワーク運営学生 名簿

はじめに

2年連続のオンライン開催を経て、今年度は3年ぶりとなる対面開催となった。企画委員の先生方をはじめ、公立大学協会の皆様、岩手県立大学の協力、参加していただいた皆様のおかげで無事に大会を終えることができた。

今大会テーマ「ReStart」には、文字通り再出発の意味が込められている。昨年度大会は東日本大震災からの10年という節目だった。それからの再出発ということで、ワークショップテーマを防災だけでなく多様性や自分のキャリアについて考えるものを取り入れた。それらの課題に対し、公立大学生に何ができるのか、今どんな活動をしているのかについて話し合う場にすることを目標とした。

今年でLINKtoposのきっかけとなった東日本大震災から11年。次の10年へとつなげる一歩となる大会となっただろう。参加者数は83名、参加大学数は23校となった。以下は今回の大会に関してのまとめである。LINKtoposへの理解と来年度以降のLINKtoposの活動に役立てて欲しい。

2022年度公立大学学生ネットワーク 運営学生一同

1.令和4年度大会プログラム

1日目[8月31日(水)]

_			
1	時間	内容	場所
	F-3 [F-3	1.74	- 23 17 1

14:00~14:30	受付	
14:30~14:50	スピーチ	市民交流プラザ福知山
14:50~15:30	ゲストスピーカー講演	川氏又派フファ福加山
15:30~15:40	質疑応答	
15:50~18:10	街歩き	
18:10~18:20	諸連絡	市民交流プラザ福知山
18:20	解散	

2日目【9月1日(木)】

時間	内容	場所
8:30~9:30	移動	
9:30~10:00	受付•開場	福知山公立大学4号館1階4101 講義室
10:00~10:30	ポスターセッション	
10:30~10:40	移動	
10:40~10:50	各WSゲストスピーカー紹介	福知山公立大学内
10:50~11:50	WSゲストスピーカー講演	
11:50~12:00	質疑応答	
12:00~13:00	昼食	食堂以外の場所
13:00~13:30	企画	
13:30~14:00	アイスブレイク	
14:00~14:10	移動	福知山公立大学
14:10~16:10	WS	
16:10~16:20	移動	

16:20~16:40	全体共有	福知山公立大学4号館1階4101
16:40~16:50	諸連絡	講義室
16:50	解散	

3日目[9月2日(金)]

時間	内容	場所
8:00~9:00	移動	
9:00~9:10	受付•開場	福知山公立大学内:各WS指定 の場所
9:10~9:30	ws	
9:30~10:25	各班ごとのまとめ	
10:35~11:30	全体共有	福知山公立大学4号館1階4101 講義室
11:40~12:10	クロージング	
12:10	解散	

2.参加者の対象と推移







3.活動内容とその成果

3.1 大会 1 日目

3.1.1 開会式

【LINKtopos2022運営 岩手県立大学 総合政策学部 3年 及川駿斗】

◎概要

運営委員副代表及川駿斗、福知山公立大学川添信介学長、LINKtopos2022企画チーム主査内田晃先生の順番に挨拶を行い、開会式とした。運営委員副代表及川からは開会の挨拶と参加者への思いを、川添学長からは福知山のことについて、内田先生からは委員の紹介とLINKtoposという企画の主旨説明をして頂いた。

◎成果

日程を遅らせることなく円滑に進行することができた。挨拶も短すぎず長すぎず良いスピーチと 言える。

◎課題

誰がどのようなことを話すのかが学生運営委員に共有されていなかったため、全員が日程を把握しているわけではなかったのが改善点。

3.1.2 講演会

【LINKtopos2022運営 名古屋市立大学 総合生命理学部 3年 伴有真】

◎概要

福知山公立大学客員教授の中貝宗治先生に豊岡市長時代の政策を通して、現代を生きる私たちに必要な力についてご講演頂いた。

◎成果

参加者アンケートからは「初めて知ることが多くて、驚きがたくさんあった」、「(先生のコウノトリの政策のように)もっと広い視野をもって街づくりに励む、研究する必要があるなと感じた」などのコメントがあり、多くの参加者にご好評いただけたことがわかった。

◎課題

運営面では教員と学生の仕事分担ができず、先生との打ち合わせなどほぼ教員に運営して頂いた。来年度以降は教員と相談し、学生でできることは学生で運営できるとよいと考える。

3.1.3 まちあるき

【LINKtopos2022運営 福知山公立大学 地域経営学部 4年 深川春輝】

◎概要

今大会は会場がふくちやま市民交流プラザと福知山公立大学の2会場のみであったため、まちを散策する機会がなかった。折角訪れたまちであり、大会中も福知山を舞台にして考えるワークショップ等もあったため、参加者全員でのまちあるきを開催校学生スタッフである、深川、伊藤、富江の3名で考え企画したものである。

1日目の夕刻から約2時間かけて、福知山市街地の北側を回った。福知山市街地にある3つの商店街(駅前通り商店街、広小路商店街、新町商店街)、御霊神社、治水記念館、まちかどキャンパス吹風舎(ふくちしゃ)、福知山城を3つのグループに分かれて、施設の方の説明などを聞きながら散策した。

◎成果

初めて訪れた人が多い中、全体で福知山のまちを知るいい機会になったのではないかと思う。 福知山市の概要や歴史、水害についても学べた機会になったと感じる。

参加者からは、「スタッフの方が丁寧に説明をしてくださり、昔ながらの街並みの残る福知山を体感出来た」「福知山を実際に歩いてみることで、どんな地域なのか、どんな歴史を持っているのかがより理解しやすかった」などの声を頂いた。

◎課題

本企画で課題であったのは、時間の短さと人数の多さである。

時間に関しては、訪れた施設の一つである治水記念館の閉館時間が迫っていたことがあり、それまでに参加者全員を入れていかなければならなかった。加えて、まちあるき開始時間が予定よりも遅れてしまい、想定よりも急ぎ足での行動となった。

そして人数に関しては、治水記念館の担当の方が3名いた関係で、先方から3グループに分かれていただいて案内をしたいとの要望があった。参加者と引率の先生方、運営学生も含めて100名ほどになるので、1グループ30名になるとお伝えし了承を頂いたが、伺ってみると、入りきらないと言われ、記念館前での待機時間が生まれてしまった。事前の打ち合わせと当日の朝にも伺ってお話したが、このような自体になってしまった。当初は5グループ(1グループ20人)でまちあるきを行おうと思っていたが、想定を超えてしまい不甲斐ない結果になってしまった。

改善案としては、いくつかルート候補を出し、どのルートを回りたいかで希望を取り人数を分散 させることが理想だと考える。今回であれば、①水害②まちづくり③歴史などのテーマに分けられ たであろう。次回大会に向けての大きな反省としたい。

3.1.4 1 日 目 総括

【LINKtopos2022運営 沖縄県立看護大学 看護学部 3年 渡邊夏菜】

受付終了後、開会式開始。順に運営副代表の及川駿斗の挨拶、福知山公立大学川添信介学長挨拶、北九州市立大学内田晃先生挨拶。まちあるきを実施。3グループに参加者を分け、1グループに開催校学生1人、運営学生3人を配置し実施。各グループの開催校学生が、施設や街並みを解説しながら先導した。同じ大学の学生同士で話をしている学生も見受けられたが、街歩き終盤には全国から集まった学生同士でそれぞれの地域の話をしている様子が見受けられた。福知山市を知ると同時に学生間の交流もでき、LINKtoposの目的を早くも達成し、2日目以降の話し合いのしやすさに繋がったと考えられる。

会場集合が午後だったのもあり、早めにきた学生たちがどこで待っていれば良いか分からず、 戸惑っている様子が見られた。集合時間より早く集合場所にきた場合を想定し、荷物置き場やそ の他集合場所周辺の施設などを事前に紹介すると会場入場がスムーズだったと考える。そのた め、次年以降の検討事項としたい。

3.2 大会 2 日目

3.2.1.1 ポスターセッション

【LINKtopos2022運営 新見公立大学 健康科学部 2年 和田悠花】

◎概要

今大会では、ポスターを参加者たちが自由に閲覧し、質疑応答や感想の共有は付箋を用いて行った。テーマは各自や団体で日々行っている地域活動や研究とした。計15団体が参加し、寄せられた質問は後日オープンチャットにて回答をいただいた。

◎成果

他大学の学生がどんな活動をしているかを詳しく知ることができ、たくさんの学生から「いい刺激になった」「自分たちももっと頑張ろうと思った」という声が寄せられた。

◎課題

閲覧のみで分かりにくかったという意見やポスターセッションの時間が20分ほどと短く見切れなかったという意見が多数あった。また、時間が限られていたこともあり質疑応答や感想共有のための付箋を活用しきれなかった。

発表があったほうがよかったという意見を多数いただいたので、次回は発表という形を視野に 入れてポスターセッションの在り方を考える必要である。

3.2.2.2 ポスターセッション参加者の声

【福知山公立大学 地域経営学部 3年 伊藤沙也伽】

今年度は15団体のポスターが集まり、他大学の学生の取組などが多様に拝見できた。特に今年度は、コロナウイルス感染症対策と時間短縮のため、ポスターの代表者からのポスター説明がなかった。これについては、ポスターの代表者からの説明がない分、自分の好きなように見て回れる点で賛成の意見と、やはり説明が聞きたかったという反対の意見があり、賛否両論である。

また、今年度のポスターセッションでは、ポスターの代表者からの説明がない分、付箋にポスターへの質問や感想を書き込み、それを張るスペースを用意していた。付箋に記入する用のペンもポスター付近に設置していたのだが、自分の筆記用具で記入する参加者が少なくなかった。そ

れを見た運営が、設置してあるペンを使用してもいい旨を声掛けすると、設置してあるペンを使用する参加者がでてきた。このことから、ペンを使用してもいいことを事前に伝えておくべきだったといえるだろう。また、付箋に記入する際に、どのように記入するか戸惑う参加者もいた。特別に記入スペースを設けてもよかったかもしれない。

以上のように、反省する部分は多々あるが、大きなトラブルもなく、結果として円滑にポスターセッションを進められた。

3.2.3.1 企画

【LINKtopos2022運営 岩手県立大学 総合政策学部 3年 及川駿斗】

今回行った企画は「お題箱」である。企画の成り立ちとして、全国から集まる学生と交流したいというニーズがあったが、初対面だと何を話せば良いか分からないという課題があった。それらを解決するために企画したのが「お題箱」である。全国の学生たちと交流をして緊張をほぐすことを目的としている。参加者を3~4人のグループに分け、席にあるお題箱から会話のお題を引いてそれについてグループで話してもらう。区切りがついたら再度お題を引いても良し、盛り上がればその話を続けても良し、というように20分間グループで話してもらう。お題の種類として盛り上がりそうなものから考えさせられるようなものまで全部で5種類用意した。

◎成果

盛り上がっていたグループが多数であった。また、大学と名前だけ紹介するようにして、学年は 伏せていたのも話のしやすさに繋がったと考えられる。そのため企画の目的を達成できたことが 成果である。

◎課題

課題としては、盛り上がるかどうかが引いたお題に左右されるというものである。今回は学びという面を含めるために「成人年齢の引き下げについてどう考えるか」のようなお題も入れたが、緊張をほぐすことを目的としているならば盛り上がるお題のみで構成するべきだったと反省している。また、開始直前にお題箱が見当たらないというハプニングもあったためそのような参加者に不安を与えるような出来事を起こさないように注意するべきだった。

3.2.3.2 企画(満足度)事後アンケート結果/参加者の声 【LINKtopos2022運営 岩手県立大学 総合政策学部 3年 及川駿斗】

◎参加者の満足度



53人の回答のうち、満足と回答したのは36人、まあまあ満足と回答したのは14人、やや不満と回答したのは3人、不満と回答したのは0人という結果となった。

◎参加者の声

【満足】

- 話の広がる内容でそこで話せて一気に色々な人と話せるようになりました。
- 場が盛り上がり、楽しかった。その後、お題箱で関わった方とは接する機会がなく、残念だった。
- 話がたくさんできてよかった。

班のメンバーがほとんど大学のメンバーだったので、他大学の人と話せたらもっと良かったなとおもった。

【まあまあ満足】

- ・企画の趣旨はしっかり実現できていたと思います。ただ、あまりに普段考えない話題過ぎて、逆に話しづらかったです。
- ・私が所属したグループは、お題の数と制限時間がちょうどぴったりだったので、話があまり長続きしないグループの為にも、もう少しお題の量を増やしても良いのではないかなと感じました。(交流の時間は必要だと思うので、時間はそのままで良いと思いました!)
- 制限時間がある中でいろいろなお題に沿って話すのは面白かった。

【やや不満】

- ・知らない人と仲良くはなれた。しかし、このような企画は初日にした方が良いのではないかと個人的に思った。もちろん、内容に不満を感じているということではなく、あくまで日程が改善点なのではないかということである。
- ・時間が短いのと、少し固すぎた。
- 諸事情により参加していなかった。

3.2.4.1 アイスブレイク

【LINKtopos2022運営 新見公立大学 健康科学部 3年 徳山光希】 ②概要

参加者の緊張を解すこと、ワークショップ前にグループ間で交流を図ることを目的とした。内容は、「自己紹介」と「ジェスチャー伝言ゲーム」を行った。「自己紹介」は名前、所属大学及び学部・学科、幼少期になりたかった職業、現在就きたい職業・やりたいことの4項目について参加者に話してもらった。「ジェスチャー伝言ゲーム」は伝言ゲームのジェスチャー版である。1列に並び、

出されたお題からイメージするジェスチャーを先頭の参加者から順番に伝えていき、最後尾の参加者がジェスチャーからお題を予想し、当てるゲームである。

◎成果

事前に運営でシミュレーションをして決定したアイスブレイクであり、ルール等も明確であったことから参加者同士楽しく交流を行なっていた。ジェスチャー伝言ゲームに関して、最初は恥ずかしそうに行っている様子だったが、ゲームの回数を重ねるごとに盛り上がり笑顔も増えていた。参加者の事後アンケートでも「楽しかった」という意見が多くみられた。

◎課題

課題は2つ挙げられる。1つ目は、タイムスケジュールについてである。アイスブレイクを大会中盤の2日目に行ったため、参加者の緊張緩和という点において、タイミングが遅かったと考える。参加者の事後アンケートでも「アイスブレイクはもっと早くやった方が良い」という意見があった。タイムスケジュールは、各企画の目的を考慮して組む必要があると考える。2つ目は、会場把握が不十分だったことである。ゲーム自体のシュミレーションは出来ていたが、会場の状態を把握していなかったため、参加者同士の間隔が狭く、動きづらそうな様子が多々見られた。会場や参加者数を考慮したゲームを行うか、参加者数やゲーム内容を考慮した会場選択を行う必要があると考える。

3.2.4.2 アイスブレイク(満足度)事後アンケート結果/参加者の声 【LINKtopos2022運営 岩手県立大学 総合政策学部 3年 及川駿斗】

◎参加者の満足度



53人の回答のうち、満足と回答したのは45人、まあまあ満足と回答したのは7人、やや不満と回答したのは1人、不満と回答したのは0人という結果となった。

◎参加者の声

【満足】

- 伝えるのが難しくてずっと笑顔でいれて楽しかったです。
- ・伝言ゲームをWS前に挟むことによりその後のWSでの緊張感が軽減されコミュニケーションが円滑に取れたと感じるためすごくありがたかった。
- ・話し合いの前にアイスブレイクを挟んだことにより話しやすく、お互いのことを少し知った状態で入れた。

【まあまあ満足】

- ・とても楽しかったです。しかし、個人的にいきなりジェスチャーゲームをするのは難易度が高いように感じたので、企画のチームでもう一度行ってもよかったかなと思いました。
- ・WSのグループで固定だと良かったかなと思いました。浅く今後つながる繋がりまでにならなかったかなと思いました。
- ・アイスブレイクは街歩きの前にあったら嬉しかったと思いました。

【やや不満】

・諸事情により参加していなかった。

3.2.5 2日目総括

【LINKtopos2022運営 福知山公立大学 地域経営学部 4年 深川春輝】

2日目は今大会の目玉でもある、ワークショップを中心に展開していった。雨も降る中だったが、大学内での活動であったので支障もなく終えられた。ポスターセッションから基調講演、ワークショップと学びを意識した一日になったと言える。全体を通しても、大学の垣根を越えてワークショップ内で話しているのは勿論、休憩時間やお昼休みでも交流があったのを覚えている。大会の目的を十分に果たしていた一日であった。

一つ付け加えるとするならば、ワークショップの時間が参加者にとって物足りたのだろうかという点である。ワークショップのテーマについて自由に議論する時間や熱量をもって議論する、それぞれの地域での活動などについても、もっと考える時間や議論する時間など参加者が求める時間の使い方ができたのではないか。解散後に、場所を設けて自由に議論できる空間を作る試みも、次年度以降取り入れてもよさそうだ。

3.3 ワークショップ

3.3.1 テーマ①感染症対策を考える災害時における避難所運営シミュレーション 【LINKtopos2022運営 岩手県立大学 総合政策学部 3年 及川駿斗】 ◎概要

企画趣旨として、避難所運営シミュレーションでは、「Hug」という避難所シミュレーションゲームを用いて避難所がどのように運営されているかというのをゲームで学んでもらう。その後、ワークショップのグループごとに、先程行ったHugでの避難所運営は感染症対策の観点から見るとどうだったのか、どうするべきだったのかを考えてもらい、それをA4用紙1枚に簡単にまとめてもらった。

このワークショップを通して、自分が避難する側になったときに、避難所でお客さんにならず積極的に助ける側に回って貰えるようにしたい、という想いでこのワークショップを行った。

タイムスケジュールは以下のように進行した。

【2日目】

10:50 ~11:50 講演会

14:10 ~ 14:40 Hugの説明

14:40~15:40 Hugの実践

15:40~16:10 感想、意見交換

【3日目】

9:10 ~9:40 ディスカッション

9:40 ~9:48 他の班と共有

9:48 ~10:05 他の班の内容を自班に共有&2日間のまとめ

10:05~10:10 感想共有

10:10~10:15 運営の総括

◎成果

避難所運営の実態を講演会とHugによって知ってもらい、実際に避難する際に起きるであろう様々な問題を学んでもらった。ただ避難するだけが避難所ではなく、避難する人の属性に合わせて避難させる部屋を割り振ったり、心身に大きな傷を負った人のケアであったり、要望への対応であったり、避難所運営とひと口に言ってもやることは多岐にわたるということを参加者同様私たち運営学生も学ばせてもらった。

参加者からも「こんなに大変なものだとは思っていなかった」「避難所に行ったことがなかったため、今回のHugは勉強になった」という声が挙がっており、参加者の意欲を感じられた。そのため、今回の趣旨である避難所に避難した際にお客さんにならず率先して手伝うようになって欲しいということは達成出来たと考える。

◎課題

Hugを実施するにあたって大きな課題となっていたのは準備に手間取ったことである。今回のようなゲームを使って参加者に学んでもらう形式は対面でしか取れないため、対面形式が数年ぶりであることもあって、一向に準備が進まずに関係各所に多大な迷惑をかけてしまった。やりたいことをやるのは良いが、LINKtoposのような全国の学生が協力して行う形式だとより誰が何をどのように進めるのか、きちんとタスクを割り振って進めるべきだと感じた。

3.3.1.1 講演会

京都大学防災研究所教授の牧紀夫先生を講師に招き講演をしていただいた。内容としては、なぜ避難所に行くのか、避難とは何か、という根本の部分に焦点を当てたお話をしていただいた。避難所での避難の事例や避難所に行くだけが避難ではないということを、写真を見ながら聞くことでより避難の状況が想像しやすく、ワークショップのHugに上手く繋がるような講演だった。

◎成果

避難とは何か、というワークショップで考える根本の部分をお話いただいたことで、ワークショップの進行がスムーズになった。また、講演が始まったのが早かったこともあり終わるのもそれだけ早かったが、質問が多数出たため講演の内容がより深まった。

◎課題

お話いただく内容を講師の方に丸投げしてしまった。運営学生では分からないこと多いが、講師の方とコンスタントに連絡を取り合えれば、学生のニーズをもっと拾い上げたより良い講演になった。

3.3.1.2 テーマ別報告会(成果物一覧)

【LINKtopos2022運営 岩手県立大学 総合政策学部 3年 及川駿斗】 ②成果

当ワークショップの成果物はHugのプレイ盤面と、A4用紙に各班の意見をまとめたものである。発表では避難所運営は予想していたよりも難しく、様々なことを考えなければならないことが分かった、という旨の感想を述べている学生が多かった。感染症対策を行うには避難所はあまりにも狭すぎて現実的では無いが、多種多様な意見が出て参加者の発想力には驚かされた。

◎課題

成果物の提出は求めず、各自持ち帰りにしたためデータがない。次回以降は写真でのデータ 提出か直接紙を渡してもらう形式にしたい。

3.3.2 テーマ②地域防災~災害予防を通して地域防災のRestartを考える~ 【LINKtopos2022運営 名古屋市立大学 総合生命理学部 3年 伴有真】 ◎概要

大会2日目は、福知山公立大学特命教授の故・横山泰昭先生にご講演頂いたのち、参加者を4人で1班の5班に分け、「地域防災」をテーマに公立大学生ができることについて考え、企画書を作成した。3日目では2日目で考えた企画書についての発表準備を行い、各班1名ずつから構成される5人1グループに分かれ、それぞれの内容について意見交換や感想共有した。

ワークショップでは、地域で災害予防活動の課題について理解してもらうとともに、大学生なら何ができるか(地域活動のRestart)を考えてもらうことを目的とした。

タイムスケジュールは以下の通り。

【2日目】

10:50~12:00 横山先生ご講演 14:10~15:05 現状分析・アイデア出し 15:10~16:05 企画書作成

【3日目】

9:10~9:50 発表準備 9:55~10:25 WS内発表

◎成果

事後アンケートにて回答された方全員から、講演、ワークショップそれぞれについて「満足」もしくは「まあまあ満足」の評価を頂いた。よって参加者の方にとって概ね満足できるコンテンツが提供できたと考える。

運営面でも多少のトラブルはあったが、柔軟に対応することができ、概ね支障なく運営することができた。

また、撮影ルールや撮影担当者を事前に決めておいたことにより、参加者により多くの写真を 提供することができた。

◎課題

ワークショップの内容は企画書を書くという非常にシンプルなものであった。来年度以降はゲーム要素などが取り入れられるとより参加者に楽しんでもらえると考える。

3.3.2.1 講演会

福知山公立大学 特命教授 の故・横山泰昭先生よりご講演をいただいた。福知山市内での豪雨災害を事例に災害時の消防や市民の動きを教えていただいた。また、ワークショップのテーマに「公立大学生ができること」とあることから、これまでの災害の教訓をヒントに普段からどのようなことに注目し心掛けていればいいのか、ポイントを教えていただいた。

◎成果

講演内容に説得力があり分かりやすく、後に続くワークショップにとても合致した内容で、実際にアイディア出しの時間に参考にしている学生が多くいた。また、講演後の質疑の際も多くの質問があがった。

◎課題

ご講演時間は余裕を取ったつもりだったが、最後は駆け足になってしまった。質問が予想以上にあり、formsかメールで先生に共有し、大会期間中に公開しておけばよかった。

3.3.2.2 テーマ別報告会(成果物一覧)2日目

【LINKtopos2022運営 沖縄県立看護大学 看護学部 2年 脇田愛未】

◎概要

ゲストスピーカー講演終了後、2日目のワークショップではアイデア出しと企画書作成を1班4名の5班に分かれて行った。アイデア出しでは、ブレインストーミングを活用し現状における地域での災害予防活動の課題を書き出した。各班で出た課題をKJ法でまとめ、取り扱う課題を決めた。その後、選定した課題に対する解決策を考えた。

企画書作成では、自分たちで考えたアイデアを分かりやすく説明し協力者を得るためにという 目的で行った。企画理由、目的、内容、対象、日時、場所、費用を事前に運営が作成したフォーマットを元に作成し、内容を深めていった。

◎成果

事前課題、ゲストスピーカー講演の内容を元に、これまでの経験などを共有し自由に意見を出し合いながら、様々な視点から考えることでそれぞれの班で同じ課題でも焦点の異なる企画書が作成されていた。また、運営が介入することなく、自分たちで話し合いを深めていき企画書作成を行うことが出来ていた。企画書のフォーマットがあったことで作成しやすく、参加者の負担にならずまとめやすくなっていた。

◎課題

アイデア出しでは、午前中に行われたゲストスピーカー講演の内容を意識するあまり課題が思い浮かばない人やゲストスピーカーの言葉の表面をなぞっているだけの人が見られた。そのため、アイデアを狭める可能性があるが説明の際に例を提示することが必要だと感じた。

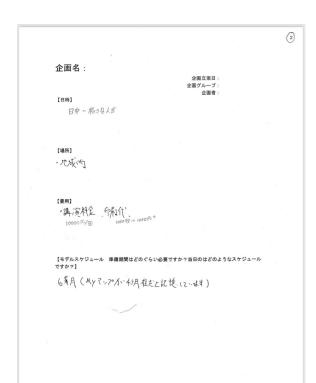
企画書作成では、企画書を手書きで作成としていたが、パソコン作成の方が修正が行いやすいため、ドライブに提出先を作成しパソコン・手書きどちらでも作成できるようにする必要があった。また、用意した企画書のフォーマットが必要な内容のみで、簡素だったためそれぞれのグループでフォーマットをデザインするなど自由に作成できるようにする必要があった。その際、模造紙に大きくまとめてもらうのも1つの案だと考えた。その他に、参加者から意見が滞ることがあったと意見があった。自由な発想を持ってもらうために運営の介入を必要最低限としていたが、どのような状態が見られたら介入するかなど運営で事前に決めておく必要があった。また、原稿の印刷指定にミスがあったため、確認をしっかりと行い準備をするようにする必要がある。

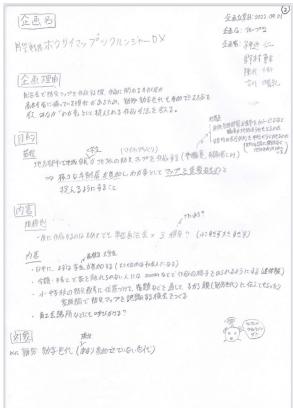
◎2日目成果物

【1グループ】

企画名 -。大学生と地域間の共動な小り一切の強化 企画独由 学生が要先して防災治動や被災時に救助治動が行る システムを構築的必要性を感じたから。 学生独自の自治会的な機能を持つ集団と地域の自治会をつなげることに よ,て、より交か果めな避難行動を軽進させる。 内容。科特1、702 甘学生による自治会的機能を持つ団体を作る。 自治会的機能は、地域へ被炎(不地域へ動けい行った)、その土地い住す人の地種外生任かる ないないかない。 次に、動性変実際の自治会と、連携し、要談別になり得る高齢で考りを堰 や安全に避難できる経路の確認を任任の方、大い、こ本に体って、回覧板や特殊回りとして終を用かせる。 災害時にかいて まず自助を徹底 好。 tの後平常時に枢握している要核助者を率先して訪りし、避難を呼がかける。 ※ ただし、これは前兆を辞う災害(長崎間の 降水公)には有なかなが、実発的な地震では この限りではない。 また、夏季体験やなど学生が少ない時は出来る限り自治体の共物を称ってもう。 対象 至生. 自治会.

【2グループ】





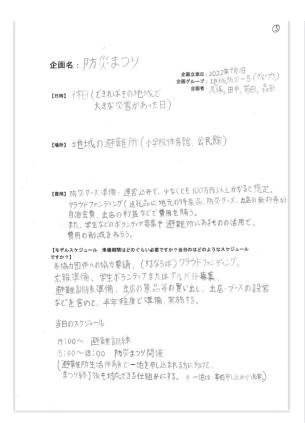
【3グループ】

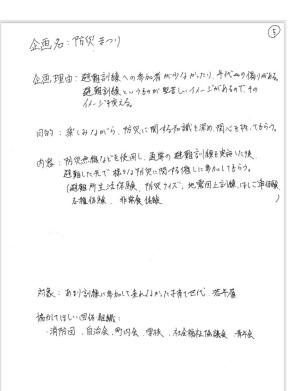
```
3
                                                                                                3
                                                 企画名:
企画名:
                       企画立業日: 1022.09.01
企画グループ: 1-9
企画者: 5-時 1 非从
ジコ 序 (3-3-9
LEE SEUNO(MIN
滅崎 条帽
                                                【企画理由】
                                                    "避難"。同りの人たちの行動に大きく左右とかるか、
                                                    月でいなご近所でんとのうほがりが勢いという詩趣を探見した。
   土日 どうウト
    月1月11年
                                                     定期的にご近所でんと顔も合かせることで、
                                                     火害時心地冰全体で轉拍的心避難がごむ 関係性を築く
【場所】
 指足避難病所
                                                           共帥!!
                                                 【 內容】
                                                       マンションヤアパート単独で、2胜難訓練を実施する。
                                                       【費用】
                                                       付覧してイベットも9ラク.
                                                       ex) 大師中の事例
                                                          アンション届任者を対象に、応見さ山ゆき、スイーツパーティー等をマンション届任者を対象に、応見さ山ゆき、スイーツパーティー等を
【モデルスケジュール 準備期間はどのぐらい必要ですか?当日のはどのようなスケジュールですか?】
                                                        ⇒ 1胜9はへの危機をあめると同時に、イベントも近して
存事の得もあけな人る ご近所 門ほど 挙ける:
                                                 1 对多月
                                                     大学同些の地域の方々
                                                      マンション・タバートのなんと
                                                  【1800 1113111 团体·铁锹】
```

【4グループ】

```
(4)
                                                        企画名
企画名: All OO 大作戦
                          企画立来日: 2012 · 9 · /
企画グルーブ: 49ほ
企画者: たむ、 ルッ · 小キネ・大台
                                                        企画理由
                                                        ・近野は民との交流が少りよく、声を災、まちがくり関連の動きがしにくいから
【日時】
[日時]
毎月9日 9:00~ [1:00
(秋見)
                                                        ・ 月を神ラ葵路大概災で"(よ、(まとんど)の人が共助(こよりを欠出されているか)ラ
                                                        見のける人が、目のけがすく、目のけられる人も目がけられがすい 門外体もくする(こめ
公立大学
                                                        . 実践に近い共通理解も干きておろしてをろてこめ
[費用]
                                                        内容
(69)
图主部上交流,揭主数173 → 大学主人心全色代。中心に723元!
無し
                                                                                                      1 Cut 2"
                                                                                                        每月9日
                                                        3月1間催力 β东災day (自Bp、共助なたじっ 知識女交流)
                                                        り大学生が意見りままくれとりよう
【モデルスケジュール 準備期間はどのぐらい必要ですか?当日のはどのようなスケジュールですか?】
                                                        (大学教員)
每月開催
知る厚上がるまじ12 防災の入りの内容を毎月をうう
人が集まってらりが災灯第についる考えるよろへ
                                                        红象
                                                        101放(10
```

【5グループ】





3.3.2.2 テーマ別報告会(成果物一覧)3日目

【LINKtopos2022運営 沖縄県立看護大学 看護学部 3年 渡邊夏菜】

◎概要

3日目はワークショップで活動したのち、全体共有というスケジュールだった。そのため3日目のワークショップでは、全体共有で個人個人が戸惑わずに発表できるように活動内容を工夫した。全体共有で発表する際に「相手に伝えるのではなく、伝わる」ことを意識し、発表練習を組み立てた。まずは個々人でワークショップの発表原稿を作成してもらい、その後ワークショップ内のグループを混ぜて発表を実施した。

◎成果

発表が得意でない参加者にも配慮し、全員で声を出して一斉に発表練習をするので、恥ずかしがらずに参加者学生は大きな声で練習している様子が伺えた。また、ワークショップ内発表では、質問時間内に質問が終わらず、その場での意見交換もなされており、同じワークショップでも全く異なる案を出していたことが、学生同士の意見交換・交流の場になったと考えられる。参加者の声として、「3日目(9月2日)の午前は、前日に完成させた企画書を他グループに発表するとともに他グループの企画案も共有してもらいました。その後、別のワークショップを受講していた学生とも合流し、2日目・3日目に学んだことや活動の内容について共有したり、質問し合ったりして、最後の交流を楽しむことができました。」との言葉を頂けて、ワークショップの目的が達成されてたと考える。

◎課題

ワークショップ内発表の際に質疑応答の時間が足りないグループと余るグループがおり、運営 学生でも質問を考え、時間が余っているグループには質問をするなどグループでより意見交換で きるような工夫が必要だった。 発表原稿作成の際に時間内に書き終わらなかった参加者がいたため、時間配分をより考慮する必要があったと考える。運営学生も実際に発表原稿を作成し、必要時間をシュミレーションするとより良い時間配分になるのではないかと考えた。

3.3.3 テーマ③未来に役立つ本当の自己分析~大学生のためのキャリアデザイン講座~ 【LINKtopos2022運営 北九州市立大学 地域創生学群 4年 妹尾多恵】 ◎概要

「キャリアデザイン」の観点から自己分析を行い、大学生活の更なる充実へ向けたプランニングを行った。この際、学生同士が意見交流を行うことで個人の視野を広げるとともに、いっそう自己理解を深め、より実践可能なプランを創造することを狙いとした。実際にはカードソート(優先する価値観を選択する手法)、バックキャスティング(「未来のあるべき姿」から「未来を起点」に解決策を見つける思考法)とモチベーショングラフ(自分の過去を振り返り、人生のモチベーションの高さを時系列に曲線で表したもの)を用いて自己分析を行い、将来的になりたい姿や実現したいこと、そしてそのために大学生活や日常生活で実践、挑戦することを個人でまとめ成果物として作成した。

◎成果

ワークショップの参加者全員が、各々の自己分析をベースとして将来のなりたい姿、これから実践したいことをまとめ、発表することができた。また学生同士が意見交流を行い、互いの自己分析の内容や成果物の進捗を共有したことで、多様な考え方に触れ、視野を広げながら活動することができた。参加者のワークショップに対しての感想の中には、「自己分析だが、他の人の話や視点から自分を見つめ直すことができた」や「自分の原点や将来目指すところを明確に言語化することで頭の整理をすることができ、それを他の参加者に話すことで意見や応援をいただくことができたため、有意義な時間になった」など、ワークショップの狙いに合った意見があり、ワークショップの意図が参加者にうまく伝わったのではないかと思う。

◎課題

各ワークの活動時間を短く設定していたため、参加者から「時間がかつかつだったので、もう少し余裕を持てるように全体の時間を減らしたほうがいいのでは。」という意見があった。活動一つひとつに最適な時間設定をするべきであったと反省する。そのために運営学生は進行の確認だけでなく、ワークの実践も行うべきだったと思う。またモチベーショングラフ(自分の過去を振り返り、人生のモチベーションの高さを時系列に曲線で表したもの)に関しては事前課題としても実践可能だったとも考えられるので、時間短縮のために事前課題として取り組んでも良かったのではないかと思う。

3.3.3.1 講演会

【LINKtopos2022運営 北九州市立大学 地域創生学群 4年 妹尾多恵】

◎概要

見舘好隆先生(北九州市立大学・地域戦略研究所教授)にご登壇いただき、先生の研究領域である「若年者のキャリア形成支援」を中心として、「未来に役立つ本当の自己分析大学生のためのキャリアデザイン講座」というタイトルでご講演いただいた。講演の目標を「VUCA時代に対応できる、新しい自己分析の仕方について知る」と設定し、「アイデンティティ資本(個人が自らの人生を戦略的に構造化し、中長期的に満足のいく生活を達成するために必要とされる認知的な諸能力)」や「バックキャスティング(未来のあるべき姿から未来を起点に解決策を見つける思考法)」について学び、これからの新しい自己分析について総合的に学んだ。

◎成果

講演会後のワークはアイデンティティ資本やバックキャスティングの考えを必要とする内容だったので、スムーズにワークに取り組む参加者の様子や成果物の完成度から、参加者が講演会を通して、自己分析やキャリアに関する専門的知識をインプットできていたと感じた。

◎課題

講演の時間が長引いてしまい、質疑応答の時間をとれなかった。このような事態に備えて、アンケートフォームなど用意しておく必要があった。また事後アンケート、参加者との会話の中で講演の内容が難しかったという意見があった。講演の資料を早くからいただいていたので、自己啓発の担当ではない、参加学生と同じ視点をもつ運営学生に資料を見てもらい、難しい点など指摘してもらう時間を作るべきであったと反省する。

3.3.3.2 テーマ別報告会(成果物一覧)

【LINKtopos2022運営 北九州市立大学 地域創生学群 4年 妹尾多恵】

◎概要

ワークを通して自分の価値観を探り、その価値観と直感をもとに、未来のなりたい姿を各自で考えた。さらにゲスト講演とワークを通して、大学生活で実践しよう、挑戦しようと思ったことを考え、価値観のまとめ、なりたい姿、学生時代にやりたいことの3つを画用紙に記入して、ワークの最後の時間に発表を行った。

◎成果

今回のワークのアウトプットとして、参加者各自の自己分析と簡単なキャリアプランを作成し、 共有することができた。短い時間のワークであったが、この成果物をきっかけとして、より具体的 なキャリアプランの作成が期待できる。

◎課題

成果物作成の進捗には個人差があった。大会2日目に取り組んだワークをもとに、大会3日目に成果物を作成したが、日を隔てたことで中弛みしてしまったように感じる。事前課題として自己分析ワークに取り組み、2日目の活動の中で成果物を作成し、3日目は確認のための時間として設定できた方がより余裕のある活動になったのではないかと反省する。

3.3.4 テーマ④多様性ってなんだろう? ~ やさしい心で私もあなたも大切に~【LINKtopos2022運営 新見公立大学 健康科学部 3年 徳山光希】 【LINKtopos2022運営 静岡県立大学 経営情報学部 4年 柴田さやの】

「多様性」という面から、全ての人が暮らしやすい社会について考えるきっかけを作った。グループワークの際は、どの多様性をターゲットとして暮らしやすい方法を考えるかということから参加者に検討してもらった。そのことで、幅広い多様性が存在し、その事実に気づくこと・自分もマイノリティに属する部分があり、誰かを否定する理由にはならないことなどを意識してもらうことを狙いとした。

講演を聞いた後、グループワークを行い、多様性について話し合った。その上で、それぞれのグループが設定したターゲットが暮らしやすい社会について考え、まとめたポスターを成果物とした。

◎成果

事前に運営間で進行の確認やトラブル対応等についてミーティングを行っていたため、円滑に 進めることができた。難しいテーマであったが、講演会や成果物発表の際に積極的に質問を行う 等、参加者が意欲的にワークショップに取り組んでいる姿が見られた。

◎課題

参加者から「(成果物作成に向けた作業の)時間が足りない」という声が上がっていた。しかし、 実際はほとんどのグループが居残って作業を行っていなかった。このことから、成果物の内容と 時間配分をより熟考して設定する必要があると考える。また、運営で成果物作成のシュミレーショ ンを行うとよりよい進行に繋がるのではないかと考える。

3.3.4.1講演会

【LINKtopos2022運営 新見公立大学健康科学部 2年 和田悠花】

◎概要

株式会社ファーストペンギン代表取締役 岡笑叶氏よりお話を伺った。LGBTQ当事者としての 葛藤からマイノリティとは何なのか、本当の理解とはどういうことなのかご講演をいただいた。誰 もがみんなマイノリティであり、マイノリティとは少数者という意味で決して弱者ではないと知り、本 当の理解とはカテゴライズせずその人自身として捉え接することだと学んだ。

◎成果

ご講演の後の質疑応答ではたくさんの参加者から質問が出た。参加者たちは「こういう場合はどうしたらいいですか」など多様性に関する様々な問題を身近な自分事として捉えられていた。

◎課題

事前課題を設定していたものの運営間でうまく伝達ができておらず、周知が出来ていなかった。運営間での情報共有を徹底していきたい。

3.3.4.2テーマ別報告会(成果物一覧)

【LINKtopos2022運営 福知山公立大学 地域経営学部 2年 冨江美有】 ②概要

ワークショップでは、まず、"多様性とは何か"、"すべての人が住みやすい社会を作っていく上で、自分達にできることは何か"に対する個人のを考えやアイデアを付箋に書いてもらい(ブレインストーミング)、その付箋を類似した考えごとにグループ分けをしてもらった。(KJ法)そして、これらの付箋をもとに、各班ごとで成果物として1枚のポスターにまとめてもらい、発表を行ってもらった。

◎成果

成果物のポスターについて、講演内容や今までの経験、知識をもとに、各班、色んな意見が出て、様々な話し合いが行われたため、成果物の内容もデザインもそれぞれ違い、オリジナリティのあるものになった。

以下、3班の成果物の内容をまとめる。

グループ1では、妊婦さんの多様性を尊重する上での壁を上げ、色んな妊婦さんにとって住みやすい社会を考え、自分達に出来ることを挙げてくれた。

グループ2では、障害、ジェンダー問題を持つ人達が周りに言いやすい環境を作るために自分達に出来ることを挙げてくれた。

グループ3では、組織にマイノリティーの声が届かず、多様な声が反映されないことや自身の意見が言いづらい環境を問題点とし、自分達にできることを挙げてくれた。

難しいテーマでありつつも、3日目のワークショップ内での発表までにポスターを完成させ、無事各班発表することができた。また、発表に対しての質疑応答も活発に行われた。全体共有での発表の際は、基本は作成したポスターを写真で撮ってもらって、それをもとに発表を行ってもらったが、班の他のメンバーが使用しなければ、ポスターを持って行ってもらうことも可能とした。



図 グループ1 成果物

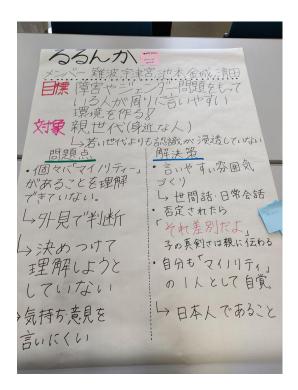


図 グループ2 成果物

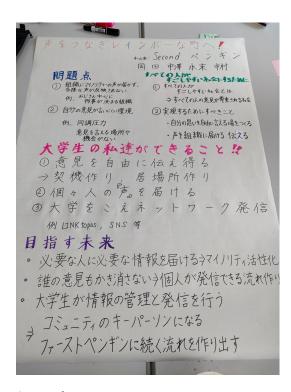


図 グループ3 成果物

◎課題

課題は、テーマとKJ法を理解できていない参加者がいた点である。そのため、運営が想定していた進行で話し合いが行われていない班もあった。説明では、伝わりきらない部分があるかもしれないので、運営メンバーで事前にテストプレイを行い、見本を提示したり、具体例を出したりと、参加者がワークショップの内容を理解しやすいような心がけが必要だと考えられる。

3.5 大会3日目

3.5.1 全体共有

【LINKtopos2022運営 静岡県立大学 経営情報学部 4年 柴田さやの】

3日目の最初にワークショップごとで発表を行った後、全員が収容できる部屋へ集合し全体共有を行なった。

その際のグループは、各ワークショップから最低1名出席し、1日目・2日目で行なったワークショップの内容を5分ずつ共有した。その後、メンバーをシャッフルし3ターンの全体共有を行なった。どのグループも、個人が責任を持って自身のワークショップの解説を行い、全員が興味を持って話を聞いている様子が感じられた。また、質問も活発にされていた。

3.5.2 閉会式

【LINKtopos2022運営 高知県立大学 文化学部 4年 和田元輝】

閉会式司会は運営学生の妹尾、和田(元)の2名で行い、福知山公立大学 川添信介 学長の挨拶、公立大学協会 松尾太加志会長の総評、LINKtopos2022企画チーム主査北九州私立大学 内田晃 教授より挨拶を頂いた。内田教授の挨拶の後、公立大学協会の鴫原ゆり主事を中心に編集したLINKtopos2022を振り返る映像を上映してくださった。最後にLINKtopos2022運営学生代表の 山崎恵理香の挨拶でLINKtopos2022 in Fukuchiyamaを閉会した。そして、全体の集合写真を撮った。



3.5.3 3日目総括

【LINKtopos2022運営 沖縄県立看護大学 看護学部 2年 脇田愛未】

3日目は受付後、各ワークショップテーマ毎に活動・まとめ、共有を行った。その後、全体共有、 閉会式を行い解散となった。 時間通りにワークショップの活動を開始し、体調不良の方もおらず最終日まで完走することが 出来た。全体共有を各ワークショップから1グループ選び全体で発表という従来の形ではなく、各 ワークショップから1人4人グループを再度作成しそれぞれの活動に関して説明する形で行った。 そうすることで、活動の内容を共有するだけでなく様々な学年、地域の学生と交流を持つ機会に なっていた。来年度も是非継続して行いたいと思う。

3.6 オープンチャットの活用について

【LINKtopos2022運営 名古屋市立大学 総合生命理学部 3年 伴有真】

◎概要

昨年度に引き続き、参加者への連絡手段としてLINEのオープンチャット機能を活用した。大会前や大会中は各イベントやバスに関する事務連絡を行った。

また、大会後はアンケートの回答の呼びかけなどの事務連絡のほか、運営教員も務めた福知山公立大学の杉岡先生からは大会が新聞に掲載されたことについての紹介が、参加学生からはポスターセッションの質問への回答や交流など多様に活用された。

◎成果

参加者への情報発信がスムーズに行えたとともに、参加者が素早く情報を確認することができた。また、大会後にポスターセッションの質問回答及び交流をオープンチャットで行ったことで、より深く交流することができたケースもあった。

◎課題

LINEをもっていない参加者へも十分に連絡ができたかについては検討していかなければならない。次年度以降では全員に届くメールとオープンチャットの使い分けについて、明確に定めておきたい。

3.7 SNSの活用について

【LINKtopos2022運営 横浜市立大学 国際教養学部 3年 坂井里衣】

◎概要

Instagram、Facebook、Twitter、LINEを活用した。宣伝、広報はInstagram、Twitter、Facebookを利用し、事前の告知や準備の様子、大会の様子を発信した。

◎成果

Instagram、Facebookは従来のアカウントを引き継ぎ、Twitterは2022年度版のアカウントを作成した。ポスターに上記SNSアカウントを掲載、大会中に宣伝も行ったため、いいね数やフォロワーは大会前より増えた。

◎課題

SNSアカウントの作成をしたが、なかなか作動させることなく終わってしまった。準備の様子といってもzoomやLINE通話の画面になってしまうため、なにか大会前にオリジナルで企画を行なうなどして高頻度で更新すれば良かった。参加学生だけでなく、来年度はより多くの人にlinktoposの存在を知ってもらえるような告知を行いたい。

3.8 プログラム全体を通して

【LINKtopos2022運営 高知県立大学 文化学部 4年 和田元輝】

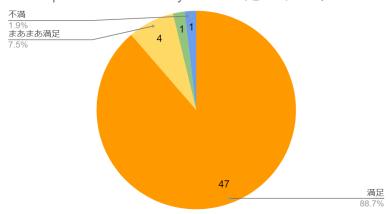
今年度の本大会の開催はLINKtopos2019 in Kochiより2年ぶりの対面開催であり、私が1年の時に初めて参加学生、開催地大学の学生として運営を行った時だった。新型コロナウイルスの影響で2年間Zoomで開催をしたことにより、対面開催を経験したことのある運営学生や参加学生が少ない中で今年は福知山で対面開催ができて後輩たちに対面開催の醍醐味を感じてもらえたと

思う。今年度の運営学生の中に、2019年に高知で対面開催を行った時に参加していた学生もおり、当時の経験を本大会で生かすことが出来たり、思い出話で盛り上がった。対面開催であると運営は大変だが、全国の公立大学からの友が集結し、大学生活の思い出のひとつとしてかけがえのない時間を共有することができる。学部など分野が違う学生同士で目標や課題解決をするために知恵を出し合うこと。これが全国公立大学学生ネットワークの強みだと思った。今回、まちあるきなど学生全体での活動から、グループに分かれて行ったワークショップなど様々なプログラム構成で3日間活動した。

3.8.1 プログラム全体の事後アンケート結果/参加者の声

【LINKtopos2022運営 岩手県立大学 総合政策学部 4年 田頭知樹】

LINKtopos2022 in Fukuchiyama の満足度(n=54)



◎参加者の声

- ・濃い3日間をありがとうございました!とっても楽しかったと同時に普段は関わるはずのない日本各地の大学生と交流を持てて刺激ある3日間でした。
- ・参加する前まではすごく堅苦しいものを想像していたため緊張したが参加してみるとすごく楽しく、参加してよかったなといい経験になったなと感じた。運営の方に感謝したい。
- 公立大学生の一体感がみれて、嬉しかったです。
- 運営の方々は無事に開催できることに重きを置いていたのだと感じた
- ・普段関わることがない他大学の学生と交流できるのは貴重な機会なので、参加することができて良かった。また、私はLINKtoposに参加したのは今回が初めてだが、昨年までの2年間はオンラインでの開催であり、今回久しぶりに対面で開催できたのは喜ばしいことだと感じている。やはり、オンラインよりも対面でのコミュニケーションの方が関係性を築きやすいので、対面でイベントを開催できるありがたさを再認識する機会にもなった。
- ・公立大生の交流する場所が少なく、ポスターセッションなどは大変楽しみにしていましたが、15分しか拝見する時間がないというのは制作する時間などを考えるとあのスケジュールへ強く非難の意を示させてください。

また最後の全体共有は大人数を移動させ、そして喋らせるというのは、本当に京都府の感染症対策ガイドラインに則ったものなのか甚だ疑問です。

・今回のようなポスターセッションの形式でしたら、閲覧時間が1時間ほどあっても良いと思いました。団体から口頭の説明がないので、文字をじっくり読み、内容を理解するだけでもかなり時間が経ってしまいました...。

参加団体は、ポスター制作に時間をかけたところも多いのではないかと思うので、次年度以降はポスターセッションの時間に改善があると、参加者の満足度がより上がるのではないかと思いました。

・想像以上に有意義な3日間でした。来年もぜひ参加したい。他大学の活動を知るような機会がポスターセッションのみだったような気がするので全体でもう少しそのような機会があればもっと嬉しい。

・もっと他大学の人と交流する機会があっても良かったかもしれない。(自由に話す時間)

4.次年度以降の学生大会開催に向けて課題、課題への提言

【LINKtopos2022運営 新見公立大学 健康科学部 3年 徳山光希】

今年度は、対面での開催となり、当日の参加者の熱量はこれまで以上に高かったように感じた。しかし、対面での開催における大会運営という点に関して、課題が見られた。今年度の運営学生は、対面開催での大会運営を経験した者がおらず、企画委員の先生等から教えていただいた対面開催の様子や流れ、過去の報告書を頼りに、手探りで企画・運営を行っていった。そのため、大会当日における参加学生の動きや起こりうるトラブルを想定することに難しさを感じていた。結果として、十分な時間を取ることができなかった企画や準備が直前になってしまった企画もあり、参加学生の移動や大会の規模などを考慮することがあまりできていなかった部分がみられた。

次年度以降の大会開催に向けては、今年度の反省や課題から、対面開催において考慮すべき事項や注意点を踏まえ、より参加学生・運営学生が有意義だったと感じられる大会となるよう会議や準備を進めていってほしい。そのためには、次年度以降の運営学生に今年度の大会運営について十分な引継ぎを行う必要がある。また、開催校の運営学生との情報共有を密にし、企画の考察や会場の設定を行っていく必要がある。

5.全国公立大学学生大会の今後の展望について

【LINKtopos2022運営 沖縄県立看護大学 看護学部 2年 脇田愛未】

LINKtopos初回開催から10回目の節目である今年は防災だけでなく、これまでに扱わなかった 多様性や学生自身に焦点を当てたキャリア形成をテーマとして扱い「Restart]として相応しい大会となった。一方で反省点も多く見受けられ、今後、更に良い大会へしていくためには、反省点を改善していく必要がある。以下2点、今後の展望について述べる。

①開催校の地域に根ざした内容とすること

LINKtopos2022は福知山公立大学が開催校であったが、WSの活動内容で開催校の地域に関する内容を取り入れる班は少なかった。また、今回のプログラムではゲストスピーカー講演やまちあるきで福知山を知る機会はあったが、福知山について考えるという機会が無かった。 LINKtoposが毎年開催地を変えているのは、普段全国各地で暮らしている学生が観光では知ることの出来ないその地域の現状や課題を学び、考え、共有することで自分の中にインプットしたものをアウトプットしより理解を深めるためだと考えられる。そのため、来年は普段考えることのない開催校の地域特有な課題についてもテーマとして扱ってもらいたいと思う。

②自分たちの活動を振り返る機会とすること

全国の公立大学生が一同に集うLINKtoposだから行える企画としてポスターセッションがある。 今年度は新型コロナウイルス感染対策やプログラムの時間の都合上ポスターセッションは発表 という形ではなくポスターを読んでもらい疑問点や感想を付箋に書いてもらうという形をとった。し かし、その場で発表し直接フィードバックしてもらう方がよりよい

今後の活動に生かすことができると思う。そのため今後は、ポスターセッションの時間を余裕をもって確保し、ただ自分の活動について発表し感想や疑問を貰うだけでなく活動について悩んでいる事や困っていることについてアドバイスをもらい活動をよりよりものとするための企画にすることが必要だと考える。また、参加団体にとっては、これまでの活動を年に一回振り返る機会としてポスターセッションが行えると良いと考える。

6.謝辞

令和4年度全国公立大学学生大会LINKtoposの開催に際して、ご指導・ご支援をいただきました企画委員の先生方、公立大学協会事務局職員の皆様、そして会場の提供、運営に協力していただきました福地山公立大学の教職員の皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。3年ぶりの対面開催を実現でき盛況のまま終えることができたのは、参加してくださった学生・教職員・学長の皆様の協力と理解があってこそだと思います。

改めて協力していただいた多くの皆様へ、心より御礼申し上げます。

令和4年度 公立大学学生ネットワーク

7.公立大学学生ネットワーク運営学生 名簿

代表

岩手県立大学 総合政策学部 3年 山崎惠理香

副代表

岩手県立大学 総合政策学部 3年 及川駿斗

運営学生

岩手県立大学 総合政策学部 4年 田頭知樹

岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 2年 國井大地

横浜市立大学 国際教養学部 3年 坂井里衣

静岡県立大学 経営情報学部 4年 柴田さやの

名古屋市立大学 総合生命理学部 3年 伴有真

福知山公立大学 地域経営学部 4年 深川春輝

福知山公立大学 地域経営学部 3年 伊藤沙也伽

福知山公立大学 地域経営学部 2年 冨江美有

新見公立大学 健康科学部 3年 徳山光希

新見公立大学 健康科学部 2年 和田悠花

高知県立大学 文化学部 4年 和田元輝

北九州市立大学 地域創生学群 4年 妹尾多恵

北九州市立大学 国際環境工学部 4年 川相恵吾

沖縄県立看護大学 看護学部 3年 渡邊夏菜

沖縄県立看護大学 看護学部 2年 脇田愛未

